

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭55-22638

⑬ Int. Cl.³
A 61 K 7/13

識別記号

庁内整理番号
7432-4C

⑭ 公開 昭和55年(1980)2月18日

発明の数 2
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑮ 染毛剤

⑯ 特 願 昭53-95693

⑰ 出 願 昭53(1978)8月3日

⑱ 発 明 者 山口春夫
京都市伏見区竹田内畑町153番

地

⑲ 出 願 人 山口春夫
京都市伏見区竹田内畑町153番
地

⑳ 代 理 人 弁理士 北村学

明 細 書

1. 発明の名称

染毛剤

2. 特許請求の範囲

1. カチオン染料を主成分とする染毛剤
2. カチオン染料を主成分とする染毛剤と過酸化水素水を含む脱色剤との組合せからなる染毛料セット。

3. 発明の詳細な説明

この発明は毛髪を多様な色彩に染めるための染毛剤に関するものである。従来毛髪の染色に用いられたのは酸化性の染料であって、この染料はそれ自体が暗色を呈さないが、毛髪内に浸透した後で酸化反応や縮合反応によって発色し染毛するものである。この場合酸化時間を短縮するために通常過酸化水素水などの発色剤と呼ばれる酸化剤が併用される。

酸化性染毛剤としては主にパラフェニレンジアミンなどの芳香族アミンが使われ、この他に色調

調整剤としてレゾルシン、カテコール、ピロガロールなどが添加される。

この酸化性染毛剤は白髪のカムフラージュ用に広く使用されているが、この種の染毛剤により染められる色は黒色が主体であり、他に栗色など褐色系統の色彩があるだけである。

しかしながら最近ファッションの多様化が進むにつれ、多様な色彩への染毛が強く要望されるようになった。

この発明はこのような要望に応えるものであって、毛髪を多様な色彩に簡単に染色することのできる染毛剤を提供することを目的としている。この発明にかかる染毛剤は塩基性のいわゆるカチオン染料を主成分とするものである。

塩基性染料は絹織、羊毛、皮革などの染色に古くから使われてきたが、色彩が鮮やかであるかわりに日光に弱く、容易に退色するという欠点をもっていた。この欠点を改善したのがいわゆるカチオン染料であり、その色彩の鮮やかさと日光堅牢度の高さによって注目されていることは周知の

アクリル繊維、羊毛などをカチオン染料で染色する場合は染料を溶かした溶液中において100℃で60分間程度煮沸するのが普通であるが、これはこれらの材料が実用中に洗剤などで洗われることを考慮し、色彩の安定化をはかるために行なわれるものであり、毛髪の場合はそのような必要はない。

従来の酸化性染毛剤で染毛した場合は毛髪は光沢に乏しく、櫛の通りも良くなかったがカチオン染料で染毛した場合は光沢、櫛の通りともすぐれている。

染色に際してこれらカチオン染料は毛髪の皮質中のメラニン色素が脱け落ちた空隙に入り込み、それが透明な毛表皮を通して見えるため光沢がすぐれているものと考えられる。

本発明にかかる染毛剤と過酸化水素水を含む脱色剤とをセットとして提供すれば需要家にとってきわめて便利である。

代理人 弁理士 北 村

